



会 報 と や ま

今号の内容

平成23年度

No. 1

(通算121号)

総会員数477名 (休会59名)

全129施設

巻頭言	2
理事会報告・定期総会報告	3~4
第27回東海北陸理学療法学会 進捗状況 その4	5
新役員紹介	6~7
地区連絡会代表紹介	8
研修会報告	9~13
東日本大震災に係る富山県医療救護班 第6次派遣活動に参加して	14~15
座談会(最終回)	16~18
リレーエッセイ	19
40周年記念事業(案内)・事務局インフォメーション	20
平成23年度 富山県理学療法士会賛助会員名簿	20
編集後記	21



岩手県釜石市避難所にて

リハビリ支援を行う当県の会員 長谷氏



巻頭言

会長あいさつ

日本理学療法士協会
富山県士会 会長 島 倉 聡

このたび、富山県理学療法士会の会長に選任いただきまして、心からお礼申し上げます。

また、塚本前会長、田村前副会長には大変なご苦勞をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

そして、3月11日の東日本大震災によって被災された多くの方々にお見舞い申し上げますとともに、被災地が一日も早く復興し、被災された方々の生活が一日も早く元通りになりますよう祈念致します。

さて、会長職も6代目となり、4名から始まった会員も500名余と組織として大きくなり、40年の歴史とともにさらに発展しようとしています。

今年度は第27回東海北陸理学療法学会の開催、医療・介護報酬の同時改定への対応、来年度は士会創立40周年事業の挙行、懸案の公益法人の取得と大きな事業がいくつもあり、会員の皆様のご支援・ご協力を頂きながら達成していきたいと存じます。

また、取り巻く環境も超高齢社会の現在、医療や介護・保健・福祉等における変革の時代の中で、富山県理学療法士会として成すべき使命とその役割を常に念頭におき、さらなる努力をを持って推し進めて行きたいと存じます。

県士会の将来に向けて、会員の皆様と力をあわせて本会の運営にあたってまいる所存ですので、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成22年度 第8回 理事会報告

日 時：平成23年2月2日（水）

場 所：富山市民病院リハビリテーション科

出席者：塚本 島倉 川合 寺田 堀尾
森田 柴田 池田 大野 滝田

書 記：宮原 金川

<報告事項>

- 事務局報告：PT協会・他県士会・関連団体からの事務局宛郵送物、会員異動について報告された。
- 包括的会員管理システム説明会報告：平成23年1月23日にTKP東京駅日本橋ビジネスセンターにて開催された包括的会員管理システム説明会について報告された。
- 士会創立40周年記念事業準備委員会報告：平成23年1月23日に富山市民病院にて開催された準備委員会について報告された。創立40周年記念事業については30周年時同様、記念講演、記念式典、祝賀会、記念誌の発行を行う。
- 第2回東海北陸ブロック理学療法士協議会報告：平成23年1月29日に電通労働会館にて開催された平成22年度第2回東海北陸ブロック理学療法士協議会について報告された。
- 第2回都道府県理学療法士会会長集会報告：平成23年1月29日に東京医科歯科大学付属病院にて開催された集会について報告された。会長集会の運営、各都道府県士会の公益社団法人化、訪問リハステーション、会員管理・IT化、がん患者のリハ研修会についての報告がなされた。

平成22年度 第9回 理事会報告

日 時：平成23年3月3日（木）

場 所：富山市民病院リハビリテーション科

出席者：塚本 田村 島倉 川合 寺田
堀尾 森山 森田 柴田 滝田

書 記：宮原 有島

<報告事項>

- 事務局報告事項：事務局郵送物、公文書発行、会員移動状況等の報告。
- 士会創立40周年記念事業準備委員会報告：記念式典・講演を企画しており、開催日及び会場を検討している。
- 骨関節疾患研究会研修会報告：2月21日に「臨床で使える股関節の触診」をテーマに開催された。参加者は41名。
- 標準理学療法研修会報告：2月6日に「心疾患のフィジカルアセスメント」「食事・排泄における理学療法」をテーマに開催された。参加者は午前41名、午後56名であった。
- 東海北陸学術大会準備委員会報告：4月頃に、演題募集要項の発送予定である。

<検討事項>

1. 役員選挙について：平成23・24年度役員選挙立候補者が、選挙管理委員会より報告された。理事・監事の欠員が確認され、理事会推薦者を検討のうえ承認された。
2. 学術誌の発送先について：次回より都道府県士会は、東海北陸ブロックのみとすることで承認された。

平成23年度 第1回 理事会(拡大委員会)報告

日 時：平成23年4月23日（土）14:00～
場 所：富山医療福祉専門学校 第1講堂
出席者：島倉 滝田 川合 徳田 大野
池田 杉谷 寺田 酒井 山口
森田 廣田 堀尾 柴田（浩）
清田 増山 塚本 田村 村田
木内 笹川 中谷 仲川 中島
高橋 竹中 城前 村中 竹田
炭谷 宮原 永山（書記）

<報告事項>

- 事務局報告事項：事務局より郵送物、公文書発行、会員移動状況の報告。
- 第27回東海北陸理学療法学術大会の準備状況について：大会長より報告がなされた。計画通りに進行しており、抄録の査読及び東日本大震災に関する活動を検討している。
- 40周年記念事業の進捗状況：委員長より報告がなされた。記念式典・祝賀会は、平成24年9月29日（土）に名鉄ホテルで開催する予定で進めている。

<検討事項>

1. 平成22年度事業報告：各部局より報告があり、承認された。
2. 平成22年度収支決算報告：事務局長より収入、支出、特別会計の報告があり、承認された。
3. 会計監査報告：当理事会同日に会計監査が行われ、必要書類に間違いなく、厳正であったとの報告がなされた。
4. 平成23・24年度の役員構成：会長より案が提出され、承認された。
5. その他：東日本大震災に対して、富山県士会より義援金20万円を送ることが承認された。

平成22年度 第2回 定期総会報告

日 時：平成22年3月13日（日）11:45～
場 所：富山医療福祉専門学校 第2講堂
理事出席：塚本 田村 島倉 滝田 酒井
川合 寺田 増山 堀尾 池田
柴田

<開会の辞及び資格審査報告>

事務局長より開会の辞が述べられた後、会長より挨拶がなされた。松井（八尾総合病院）より報告。会員出席者35名、委任状256名、総数291名にて定数を満たし総会成立。

<議長団選出>

一任より議長に木内（富山県高志学園）山崎（みどり苑）が選出される。また議長より、書記に炭谷（マーシ園療護ホーム）吉田（富山県厚生連高岡病院）、議事録署名人に中川（通所リハビリとよたシャキシャキ）田嶋（富山通信病院）が指名。

<議案>

1. 平成23年度事業計画：会長より活動指針が述べられ、各担当局長より報告される。拍手多数にて承認される。
2. 平成23年度予算案：事務局長より報告。審議にて拍手多数より承認。
3. 平成23・24年度役員選挙：選挙管理委員長より、立候補及び理事会推薦が報告される。拍手多数にて承認される。
4. 平成23・24年度副会長：新会長より任命があり、拍手多数にて承認される。

<議長・書記の解任> <閉会の辞>

田村（地域リハビリ支援室 タムラ）より述べられ、以上をもって総会は閉会。

第27回東海北陸理学療法学術大会

進捗状況 その4

第27回東海北陸理学療法学術大会

準備委員長 城戸 智之



学術大会開催まで6ヶ月を切った4月、大会趣意書・プログラムを関連団体や企業、会員所属施設、東海北陸地区のPT養成校に送付し、併せて広告掲載や協賛のご依頼をさせていただきました。会員には演題募集、ポスターを発送し、いよいよエントリー受付のステージに突入しました。演題の登録と査読については、J-Satge（独立行政法人科学技術振興機構）のシステムを利用します。

事前に準備委員が演題登録者や査読者になってシミュレーションシステムを確認し、必要に応じてJ-Stageに修正を依頼しました。全国大会と同様のシステムですから、演題登録については全国大会への練習ステップになるわけです。

そして、是非注目していただきたいのですが、今回の学術大会より優秀演題に対する表彰は、今回の学術大会の閉会式に行うことになりました。一般講演、ポスターと新人症例発表より選定されます。その表彰のために発表する訳では決していないと思いますが、そういった発表を参考にしたり、手本にすることでより視野が広がり、理学療法の構築に役立つと信じております。勿論、表彰された場合には、それは大変名誉なことです。

本当に多くの方の演題応募を期待すると同時に、多くの方が参加されることを願って、準備を進め

第27回 東海北陸理学療法学術大会
テーマ「ここはくして 医療の潮流を探る」
2011年10月29日(土)～30日(日)
富山県会館 富山県富山大学前1-2

プログラム 演題発表 口頭発表1一般、新人症例・ポスター発表 1日目予定

1日目講演
 「医療の未来と理学療法士の役割」～富山県医師会会長 大村 健二 氏
 「理学療法士の役割と今後の展望」～富山県理学療法士会会長 佐藤 博 氏

2日目講演
 「医療の未来と理学療法士の役割」～富山県医師会会長 大村 健二 氏
 「理学療法士の役割と今後の展望」～富山県理学療法士会会長 佐藤 博 氏

口頭発表1一般
 「医療の未来と理学療法士の役割」～富山県医師会会長 大村 健二 氏
 「理学療法士の役割と今後の展望」～富山県理学療法士会会長 佐藤 博 氏

新人症例発表
 「医療の未来と理学療法士の役割」～富山県医師会会長 大村 健二 氏
 「理学療法士の役割と今後の展望」～富山県理学療法士会会長 佐藤 博 氏

ポスター発表
 「医療の未来と理学療法士の役割」～富山県医師会会長 大村 健二 氏
 「理学療法士の役割と今後の展望」～富山県理学療法士会会長 佐藤 博 氏

大会委員長 佐藤 博 氏 (富山県理学療法士会会長)
主催 富山県理学療法士会、富山県医師会、富山県理学療法士会
協賛 富山県理学療法士会

大会HP <http://tp27.unin.jp/> **E-Mail** tp27-office@unin.net

ております。10月29日(土)と10月30日(日)は他のスケジュールを入れないようにお願いいたします。富山県士会員の皆様には、場合によってはスタッフとしてご協力いただく場合もありますので、その際にはよろしくお願いします。

私が所属する県士会の基礎系専門領域研究会では、当学術大会での発表に向けて機器のプレゼンやデータ取りの予定など検討し、着々と準備をすすめています。団体、個人を問わず多くの演題と参加を切に願っております。また、定期的にホームページをチェックしてください。



大会ポスター（HPよりダウンロードしてください。）

演題発表準備を進める基礎研究会メンバー



副会長(理事、学術局長)

川合 宏(富山大学附属病院)

微力ですが、県士会の学術活動推進に寄与したいと思います。
引き続き、よろしくお願いします。



副会長(理事)代議員

滝田 正樹(富山市民病院)

会長を補佐して、円滑な士会活動が行えるように努力していきます。



理事 教育局担当

酒井 吉仁

(富山医療福祉専門学校)

理学療法士が社会のニーズに応えられるよう、皆様と一緒に、理学療法教育システム構築に取り組みたいと考えています。



理事 事務局担当

徳田 裕

(富山医療福祉専門学校)

今年度、事務局担当理事に着任しました。努力して事務局担当理事の業務を執行したいと思います。皆様ご協力をお願い申し上げます。



理事 教育局担当

山口 城弘(高岡市民病院)

これまで、私は高岡地区連絡会の代表を4年間やってきました。この経験を活かして、県士会の活動においても、会員のニーズに応えられる取り組みをしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。



理事 事務局担当

大野 愛美

(富山県高志リハビリテーション病院)

更年期障害と戦いながら、がんばりたいと思います。



理事(教育局長、研修管理部長)

寺田 一郎(厚生連高岡病院)

会員の皆さんの、新人教育から生涯学習(認定・専門理学療法士)まで、サポートしていきたいと思っています。



事務局

事務局長、組織部長

滝田 正樹(富山市民病院)



事務部長

宮原 謙一郎

(富山医療福祉専門学校)

事務部長に就任した宮原です。会員登録・保険、総会・理事会運営等、10名の部員で頑張っております。宜しくお願い致します。

教育局

教育局長、研修管理部長

寺田 一郎(厚生連高岡病院)

卒後教育部長

中島 隆興(富山県立中央病院)

またひとつ、学ぶ機会を頂きました。宜しくお願いします。



財務部長

徳田 裕

(富山医療福祉専門学校)



福利厚生部長

木内 彰

(富山県高志通園センター)

早いものでもう3年目になりました。至らない点も多いと思いますが、皆さんの福利厚生事業への積極的な参加をお待ちしています。



卒前教育部長

高橋 武広(真生会富山病院)

2年目の部長職となります。まだ至らない点が多々ありますが、会員、部員の皆様と共に卒前教育を盛り上げていきたいと思っています。



情報管理部長

笹川 尚(黒部市民病院)

今年度より情報管理部部長になりました黒部市民病院 笹川です。よろしくお願いします。



理学療法士会 役員紹介

会長(理事)代議員

島倉 聡(黒部市民病院)

富山県士会の発展に向けて、士会員が力を結集しやすい士会づくりを進めていきたいと思ひます。皆さんご協力をお願いしなす。



監事

清田 正昭(富山労災病院)

引き続き与えられた職務を頑張りたいと思ひます。



監事

増山 智(富山県立高志学園)

不慣れな仕事ですが、がんばります。

理事 学術局担当

池田 裕哉

(八尾総合病院)

今年度より学術局担当理事となりました。微力ながら、一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひします。



代議員、理事 職能局担当

森山 明

(魚津市役所 社会福祉課
魚津市地域包括支援センター)

いろいろな意見や考え方が、新しい時代には必要です。そのための資料として、行政から情報発信していきたいと思ひます。



理事 公益事業局担当

柴田 浩之(市立砺波総合病院)

理事と保健事業部長を兼務することになりました。少しでも県士会の力になればと思ひています。よろしくお願ひします。

理事 学術局担当

(学術資料部長)

杉谷 清美

(射水市民病院)

今、自分に何ができるのか考へています。広い視野を持ちながら、足元を固めていきたいと思ひます。



理事 職能局担当

廣田 和寛(光風会いこいの家)

公私ともに一杯一杯ですが、PT組織、社会にどう貢献できるか考へながら微力を尽くしたいと思ひます。よろしくお願ひします。



理事(公益事業局長)

堀尾 欣三(南砺市民病院)

士会長のもと、士会員の皆様と、次世代の社会における理学療法の確立に微力ながら貢献していきたいと思ひます。



理事(職能局長)

森田 忠秀(西能病院)

微力ではありますが、職能局として会員の皆様にタイムリーな情報が届けられるようがんばります。今後ともよろしくお願ひします。



公益事業局

公益事業局長

堀尾 欣三(南砺市民病院)

職能局

職能局長

森田 忠秀(西能病院)



福祉事業部長

広川 晃彦

(独立行政法人労働者健康福祉機構
富山労災病院)

福祉事業部は、ノーマライゼーション推進事業と講師派遣事業を担当しています。興味のある方は是非入部してください。

学術局長

川合 宏(富山大学附属病院)



業務推進部長

竹中 誠

(アルペンリハビリテーション病院)

皆様の理学療法業務の遂行における疑問・悩みの解決や、新しい情報の提供などお手伝いが出来るように努めたいと思ひます。よろしくお願ひします。

専門領域研究部長

仲川 仁(山田温泉病院)

各研究会代表に連絡をして頂き、一緒に企画・運営して頂ければ思ひます。積極的な参加をお待ちしております。



医療保険部長

城前 美奈(かみいち総合病院)

来年は医療・介護同時改定の年です。微力ながら皆様のお役に立てるよう努力してまいりますので、今後とも宜しくお願ひ致します。



保健事業部長

柴田 浩之(市立砺波総合病院)

広報部長

炭谷 勇

(社会福祉法人マーシ園
マーシ園木の香)

広報誌の発行や理学療法週間事業などを通じ、一人でも多くの県民に理学療法(士)について理解いただけるよう努めてまいります。

学術資料部長

杉谷 清美

(射水市民病院)



介護保険部長

村中 浩則

(富山県社会福祉協議会細入支所)

来年度は、医療保険・介護保険両制度の改定の時期になります。微力ではありますが会員の皆様のお役に立てればと考えています。



調査部長

柴田 孝博(市立砺波総合病院)

調査部は士会活動に関する調査などを行っています。士会員の皆様に役立つ事業を実施していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

地区連絡会代表紹介

新川地区

笹川 尚（黒部市民病院）

新川地区連絡会の代表の黒部市民病院 笹川です。よろしくお願いします。



富山南部地区

池田 裕哉（八尾総合病院）

今年度も勉強会や懇親会などを開催し、富山南部地区PTの交流を深めていきたいと思います。



中部地区

小西 純子（なごみ苑）

中部地区は医療・生活・教育の場で働くPTが集まっています。

熱く、ざっくばらんに語っていききたいです



高岡地区

中村 拓人（厚生連高岡病院）

この度、高岡地区連絡会代表をさせて頂くことになりました。山口前代表の路線を引き継ぎ、更に盛り上げていきたいと思っています。



富山北部地区

梅野 晃

（高志リハビリテーション病院）

今年度、富山北部地区の代表を務めさせていただきます高志リハビリテーション病院の梅野です。皆様のご協力よろしくお願いします。



砺波地区

竹林 高弘（南砺中央病院）

勉強会等を通して、他施設のスタッフとの交流を深めていければと考えております。ご協力、ご鞭撻宜しくお願い致します。



富山中央地区

竹林 由希世（富山市民病院）

2年目になります。今年度の目標は、交流会2回です。皆様の参加をお待ちしています。

よろしくお願いします



研 修 会 報 告



理学療法士講習会応用編を終えて

山田温泉病院 仲 川 仁

今回、初めて日本理学療法士協会主催の理学療法士講習会応用編が平成22年11月13日(土)14日(日)に富山医療福祉専門学校で開催されました。

テーマは「筋・筋膜性可動域制限と痛みに対する治療」と題しまして、3人の講師をお招きして行われた。講師は石川県リハビリテーションセンターの荒木茂先生、首都大学東京の竹井仁先生・来間弘展先生でした。

参加者は北は北海道から、西は兵庫県からの参加があり、46名でした。内容は、1日目荒木先生の担当で、軟部組織に対する評価総論から始まり、姿勢・筋・運動パターンの評価、筋の活性化エクササイズ、症例報告を写真・動画を交え、わかり易くかつパワフルに講義を頂きました。その後、来間先生の担当で軟部組織モビライゼーションの実技を交えた講義を頂きました。

1日目終了後、講師を交え、懇親会を行ない、富山県初来県の講師陣との懇親を深めました。

2日目は雑誌、テレビ、執筆にマルチな活躍をしておられる竹井先生の担当で、ストレイン、カウンターストレイン、筋膜リリースの講義と実技を頂きました。新しい見方と臨床の場ですぐに使える、分かりやすい内容でした。

全国レベルの日本理学療法士協会主催理学療法士講習会が、富山県で行われるのは初めてで、開催準備には、学術局専門領域研究部骨関節系研究会が担当し手探り状態で行いました。そのかいあって今回の開催となりました。定員40名に対して全国から100名に近い申込があり、参加者の調整には苦労しました。この理学療法士講習会の富山県開催には、富山県士会員の希望者がすべて参加して頂きたいという願いがこもっているので、今後は数年に渡り本講習会を開催予定していますので、全国はもとより富山県士会員の参加をお待ちしています。



学術研修会【標準理学療法研修会を終えて】

中川整形外科クリニック 畔 川 慎 一



講演する松井一人 先生

平成23年2月6日(日)、富山医療福祉専門学校にて標準理学療法研修会が開催されました。講師には紙谷昭央先生(魚津老人保健施設)、氏淳志先生(アルペンリハビリテーション病院)、中川勇和先生(デイサービスやくしの里)、そして福井県から地域リハの第一人者である松井一人先生(ほっとリハビリシステムズ)より「食事・排泄における理学療法士の関わり」をテーマにご講演頂きました。

講義内容は、口腔の解剖、摂食・嚥下動作の基礎的な知識の確認から、嚥下障害の評価ポイント、ケースを挙げての臨床場面での介入方法、今後の理学療法士として求められる事など、多岐にわたりわかりやすくご講演頂きました。実際に食事・排泄に障害のある症例に対して介入した経験の無い私にとっては、現在どの様な理学療法アプローチを行っているかを知る良い機会となりました。

理学療法士及び作業療法士法が施行されてから45年が経ち、高齢化する社会の中で理学療法士の役割も変化してきています。現在、わが国は他国と比べて寝たきり高齢者数が多く、死亡場所の8割以上は病院・診療所です。このことによって、今後地域リハビリとして維持期リハビリの需要が高まってくることが予想されます。そのため維持期リハでは、急性期・回復期同様のリハ内容ではなく、自己選択・自己決定のカリキュラムで参加したくなるようなリハビリへの変革が必要です。そして、通所ケアと訪問ケアを一体化させた在宅ケアに積極的に理学療法士が介入し、理学療法士の匂いが「プンプン」する在宅ケアの展望が必要であると学びました。従来の介入内容に縛られず、理学療法士がリハビリテーションの視点で患者・利用者を評価分析して、ケアスタッフがその要素を生活に結びつける。そして患者・利用者が活動する喜びを得るよう行動変容させることが地域リハビリテーションのfinal goalであると感じました。今後、理学療法士のSpecialistとしての機能だけでなく、Generalistとして幅広い知識・技術・経験と様々な視点からアプローチを行っていける様、日々努力していきたいと思っています。



卒前教育部研修会「理学療法教育方法論 臨床で生かす姿勢・動作分析」を開催して

アルペンリハビリテーション病院 津田 浩史

平成23年2月27日(日)、真生会富山病院において「理学療法教育方法論 臨床で生かす姿勢・動作分析」と題し、定員よりも多い49名の理学療法士が参加し、研修会が開催されました。講師には石川県リハビリテーションセンターの荒木茂先生をお招きし、マッスリンバランスの考え方に基づいた筋骨格系運動機能障害の評価・治療方法を講義と実技を交えて講演いただきました。

この方法はJandaアプローチの考え方を元に荒木先生が考案され、姿勢分析、筋の長さテスト、ファンクショナルテスト、軟部組織の評価を行い、その結果からマッスリンバランスに対する治療を行うといったもので、評価方法が選択式であることから誰でもほぼ同じ評価ができるということが特徴です。

姿勢・動作分析は各個人の主観的な表現でかつ、文章としてあらわす必要があるため、実習生・実習指導者にとって評価、指導が大変難しい項目です。本研修会を通して、姿勢・動作における着眼点、問題点が客観的に評価できることで、実習生の指導に生かすことが出来るのではないかと思います。



実習生が増加している昨今、指導者側の質の向上も目指す必要があると思います。臨床のみならず実習生指導に生かすために、今後も卒前教育部はこのような研修会を開催していきます。是非ご参加下さい。



荒木先生とその説明をきき入る参加者



業務推進部研修会報告

2011年3月13日(日)富山医療福祉専門学校において、福井県でほっとリハビリシステムズを運営なされている松井一人先生を講師にお招きし、"次世代理学療法士に求められる展望とビジョン～理学療法士の起業と社会貢献について"をテーマに研修会が開催された。

当日は、若いセラピストからベテランのセラピストまで約80名の参加があり、作業療法士の先生の参加もあった。ご講演では、現在我々が置かれている社会・医療情勢から松井先生の運営されている施設の紹介・スタッフ教育・他部門連携に渡り貴重なお話を非常に熱心にご講演いただきました。

平成24年の医療・介護の同時改定を目前にし、我々は日々の業務はもちろん、我々を取り巻く情勢をよくみることも非常に重要であることを改めて考えることができた。また、これからの時代、理学療法の専門性はもちろんのこと、職種の専門性をよく知り連携をとることや、対象者の生活・家族までを考えた関わりがリハビリテーションチームに求められると考える。医療保険のもとで行われる理学療法のみならず、その方が住みなれた自宅・地域で元気に楽しく過ごしていただけるために、我々理学療法士は何ができるのかを良く考えることが必要であることを考えさせて頂けた貴重な機会となった。ご講演いただきました松井先生に、この場をお借りいたしまして改めて御礼を申し上げます。



第1回訪問リハビリテーション研修会開催!!

平成23年2月19日(土)に富山県立中央病院にて訪問リハビリテーション(以下訪問リハと略)研修会を開催しました。訪問リハに携わる職種が顔を合わせ情報交換できる基盤作りと、自ら携わっている訪問リハを今一度見直す機会を目的に4時間の研修会を行いました。

前半は富山における先駆者である地域リハビリ支援室タムラ、田村茂氏に「私が学んだ人と訪問リハビリ」と題して、失敗談、思い出に残るケースなどを通して訪問リハの醍醐味を伝えて下さいました。後半はパネルディスカッションとして病院、老人保健施設、訪問看護ステー

ションで実際に働いているPT、OT、STから、オーダーからサービス提供までのながれと事例紹介が行われました。

周知時期がPT、OT、ST士会によりばらつきがあったにも関わらず、当初予定して



研修会後の懇親会

いた30名を多大に越えた79名の参加がありました。今回の参加者の半分は訪問リハにまだ従事していない人で、この分野への関心の高さが伺えました。また、従事している人の経験年数で最も多いのは5～9年目といった中堅メンバーでした。そしてアンケート

トより、日頃悩んでいる様々なことが浮かび上がり、研修会の希望が多くありました。

研修会終了後、富山駅前のお店に場所を移し、職種や年齢を超えて熱い想いや展望について語り合いました。今後、この熱い想いと仲間を大切に、富山の地域リハの発展に向けてがんばっていきましょう。



第42回富山県リハビリテーション研究懇話会



講演される才藤栄一先生

平成23年4月24日（日）サンシップとやまにて、第42回富山県リハビリテーション研究懇話会が開催されました。

今回は、藤田保健衛生大学の才藤栄一先生をお招きして「嚥下リハビリの最新トピックス」と題してご講演をいただきました。またそれに先立ち「在宅で嚥下を維持しよう」をテーマにシンポジウムもあわせて行われました。

才藤先生の講演では、藤田保健衛生大学と東芝との共同開発中である最新のCTに

よる嚥下の定量的評価の紹介を中心にお話をされました。講演の大半を「嚥下障害」に関するものでありましたが、「嚥下」以外にもいくつかお話があり中でも注目されたことは、「歩行訓練」のあり方について再考する一言があったことです。『一般に「訓練」というものは手取り足取り行うものではなく、そうして行う「訓練」は「歩行訓練」のみである。「歩行訓練」の方



パネリスト 左側より 平賀氏 羽柴氏 長田氏
山崎氏 小林氏

の味覚について」、小林歯科クリニックの小林岳志氏が「訪問歯科治療」、深川病院のOTで長田直美氏が「食べることを支える—OTの関わり」、南砺市民病院のSTで羽柴尚子氏が「嚥下に関する訪問リハ」についてそれぞれ発表されました。

今回はテーマが「嚥下障害」でありましたが、理学療法士の参加は40名と多くの方が参加され、参加者アンケートでも「S Tのチーム医療の大切さが認識できた」「嚥下について理解できた」と概ね「よかった」との回答を得ました。このところ、富山県リハビリテーション研究懇話会は参加人数の低迷が続いていましたが、今回は、全参加者数が210名を超える稀にみる盛況ぶりで懇話会を終えることが出来ました。近年、「連携」というキーワードが多く聞かれるようになり、他職種が一同に介する機会ですので、今後とも多くの参加をお願いして、報告を終わります。



多くの参加をいただきました

富山県高志リハビリテーション病院

長 谷 一

お詫びと訂正

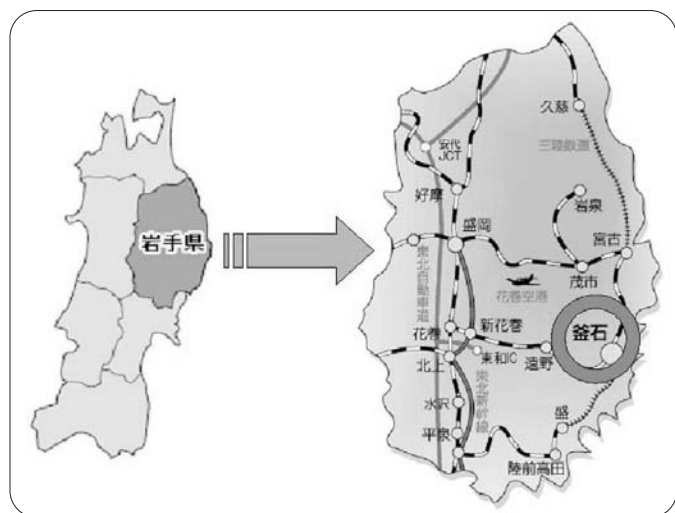
「平成22年度No. 4 会報とやま」におきまして、発行年月日が「2011. 0. 00」となっておりました。正しくは「2011. 3. 10」です。訂正をお願いいたします。ご迷惑をおかけいたしました読者の皆様および関係各位の皆様には深くお詫び申し上げます。

富山県理学療法士会 情報管理部

東日本大震災に係る 第6次派遣活

富山県は、岩手県釜石市に対して、被災病院や避難所における医療支援を行う目的で、県下の各公的病院に依頼し医療救護班を派遣していました。今回、富山県医療救護活動に理学療法士として参加いたしましたのでご報告いたします。

富山県医療救護班第1班は、3月17日より県立中央病院から派遣が開始されました。派遣先は岩手県釜石市。岩手県南東部に位置する製鉄とラグビーで有名な街です。私たち富山県高志リハビリテーション病院は、かみいち総合病院と合同で「富山県医療救護第6班」としての派遣となりましたが、リハ部門の参加は初参加ということでした。日程は5泊6日で、4月6日より移動いたしました。初日は、宿舎である弓道場までの移動、前班の第5班からの引き継ぎが行われ、その後パックご飯とレトルトカレーで夕食をとり、寒い板の間で寝袋に包まれて寝ました。



岩手県釜石市の案内図

私たち富山県医療救護第6班は、計5箇所の避難所・集会所を巡回いたしました。役割としては、「病院が津波に流されなくなった」・

「自家用車を津波に流された」など所謂「足がなくなった人々のコミュニティを支える役割」を担うことでした。その方法として、避難所・集会所に「臨時(時間限定)の診療所」を開くという方法がとられていました。

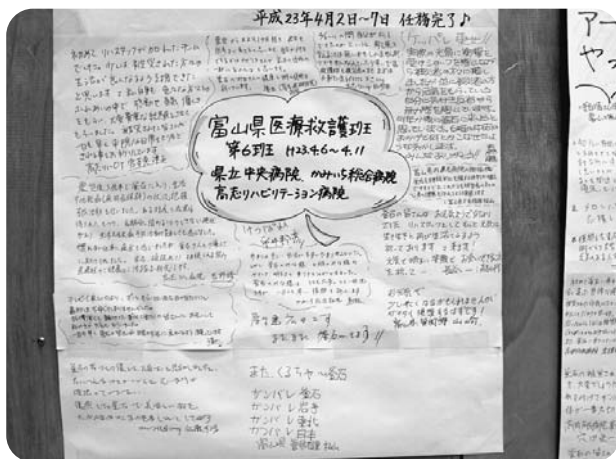


釜石市震災状況

診療にあまりかかわることのない「リハ部門」としては、まずは避難所等での被災者の個別調査・避難所等の評価を中心に実施しニーズ調査を行いました。その中で「4月中旬から瓦礫の撤去作業が始まる」その前に、流された自宅付近などの周囲にご自身やご家族の思い出の品を含む貴重品を探しに出ておられる方が多いとの情報を得ました。地震だけでなく壊れた建物の周囲だけを探すことになるのですが、津波の影響から広い範囲を搜索する必要があるようです。瓦礫のため不安定な足場で、瓦礫をかき分けながら物を探す作業は大変なことかと思われます。そういった作業により腰痛・膝関節痛などの疼痛症状が出現する方が多いことを聴き進めていくことでわかりました。報道でもあったように「みんな大変。私よりも大変な人がいる。」という考えからなかなか訴えず、こちらが気づく

富山県医療救護班 動に参加して

までには時間のかかる作業でした。対応としてマッサージなりストレッチなりを指導しましたが、聴きだすまでに時間がかかるため1避難所につき1～2人程度しか対応できない状態でした。



宿舎に残してきた第6班の寄せ書き

派遣期間中、数人ですが在宅への訪問も行いました。自宅内の環境整備・杖の提供・自主運動の指導など対象はさまざまですが、それなりの支援はできたと思っています。しかしながら、遠い土地での我々の対応が、効果的であったのか否か知るすべがないのは残念ながらところです。



在宅にてポータブルトイレへの移乗の指導

今回の派遣活動である4月10日までという時期は、学校始業の時期と重なり、被災者は自らの配慮から避難所を移動していかれた方が多くいたようです。その行き先は、ご自宅であったり廃校となった旧校舎であったり内陸部の方の避難所や親戚の家であったりとさまざまでした。今回の活動は、富山県として指示された以外の避難所を巡回することができない立場にありましたが、学校以外の避難所や在宅にはリハを必要とする方は多くあると感じています。



富山県医療救護第6班メンバー

どこでも述べられていることではありますが、今回の震災は、被害の規模・範囲ともに甚大なものであり、長期的な支援が必要であろうと、現地に赴き改めて感じました。

今回の東北地方太平洋沖地震での支援活動については、「東日本大震災リハ支援関連10団体」として「日本理学療法士協会」も参加することになっています。もし可能であるなら、皆さまもご参加いただけるようお願いし、今回の報告を終わります。

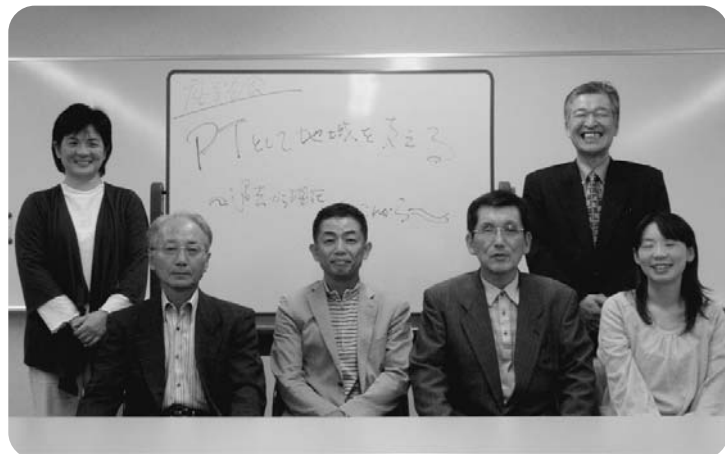
富山県高志リハビリテーション病院

長谷 一

PTとして地域を支えるために ～過去から現在、そしてこれから～

出席者

司会：森山 明（魚津市地域包括支援センター）
 講師：西川 浩（社会福祉法人 新川老人福祉会
 魚津訪問看護ステーション）
 飯野 淑子（老人保健施設 レインボー）
 福江 明（いきいきサポートセンター「ゆめ」）
 堀尾 欣三（南砺市民病院）
 平田 暁子（砺波市福祉市民健康センター
 砺波市訪問看護ステーション）



森山：介護の世界に行くと、PTとOTが同じような仕事をしています。職制というものがあまりないと感じますが、みなさんはどう感じますか？

飯野：OTがPT的なことをやっているのを見ると、作業療法士として関わってほしい、と感じます。なぜ老健はこうなっていったのかと、つねづね思います。

森山：制度的には、当初どちらでもいい、でしたよね。

飯野：初めは、100人に対して1人のPT又はOTがいればよい、という状態から老健は始まったと思

います。当初私は、どうしてPT・OT両者いらないの？と疑問に感じていました。

福江：地域はPTよりOTの方が活躍の場があると思います。デイではOTのほうが楽しいと思います。いっぱい引き出しを持っていますし。

森山：訪問ではどうですか？

平田：私個人は在宅に関わる場合、別々な感覚と

いうのはなく、その方をそれぞれの視点でみながら、その方に何をしていけばいいのかを一緒に考える、という感じです。あまり領域がどうのって感じを受けたことがないです。

森山：その職業性を生かしながら、大きな在宅リハビリをつくっていくというイメージですね。

西川：在宅で生活のリハビリをするとなると、PTはどこに関われるのか考えてしまいます。私の経験や技術では、病院から受け継いだ、いわゆる機能訓練しかやっていない気がします。病院では毎日訓練ができますが、訪問の場合は週1～2回、40分で一体何ができるのでしょうか？バイタルなどを測っているうちに結構時間がかかり、結局機能訓練になってしまっているところはあります。OTはより生活をみているのではないのでしょうか。私は自分のしていることが正しいのか、誰も指導してくれないので、自問自答しながら行っています。

森山：PTとしても、独自性を出すのでしょうか？

堀尾：PTとOTで業務分担していると思います。細かいところは違いますが、オーバーラップして



森山 先生

いるところが多いので、重なる部分はお互いワーキングシェアしている感じです。マンパワー自体がそこまで十分ないのが、現状なのではないでしょうか。病院のようにPTやOTやSTとエリア分けできないのが現場だと思います。特に老人保健施設などは、対象人数に対して限られた人数で、すべてのケアをしているのが現状ですね。今まで誰も介護保険におけるエリア分けについて考えられていなかったのも、大変難しい質問だと思います。

西川：利用者サイドで見れば、PT・OTの両方が必要だと思いますが、両方入っていることなんてほとんどありません。

森山：確かにスタッフさえいれば、PT・OTが週替わりで行くなどの方がいいですね。

福江：老人保健施設では、OTしかないところもありました。利用者に求められて、歩行訓練などを行わなければならないことが多くあったのではないのでしょうか。



福江 先生

堀尾：ニーズに応えることが優先されてしまうのですよね。もともとエリア分けされればよかったのだと思います。

飯野：利用者も、機能訓練的なものをリハビリに求めることが多いです。私たちからみたら、もっと生活に密着したことを行った方が生活の質が高まると思うのですが、どうしても機能訓練を求められます。

森山：介護の世界でもPT・OT・STがいますが、他のスタッフとの連携をどうやってとるか、を主に声を出していく職種が必要ではないですか？

福江：介護の世界の人は、リハビリ＝機能訓練＝PTというイメージが強いです。リハビリテーションとは社会的概念であり、相互的な更生活動だと思います。現在の介護保険の中のリハビリは、リハビリの視点に立てていないと感じます。本来の

リハビリは、その人達がどんな生活をするのか、ADLからQOLということを見ていくべきです。QOLは機能訓練のなかでつかめるものではなく、その人の総合的な生活の中でどういうものを生み出していくかということが問題となります。

森山：まだ介護保険の中で、十分業務分担ができていない様子ですね。今後制度も変わる中で考える必要がありますね。

福江：介護はやはり地域からだと思います。

森山：介護保険の中で職種の違い、そこでの連携の難しさ、これは永遠の課題だと思います。

ここで話をしていく中で、こういった形の連携なのか、またいろんな職種に向けてのメッセージなのかという問題は、これから考えていかなければならないと思います。

終わりに当たって、これから介護保険制度も変わる中で、みなさんから一言頂ければと思います。

堀尾：今回は介護保険サービス中心で話が進みましたが、PTが関わっているのは小児、難病、障がい者の問題も沢山あります。障がい者の方がサービスを受けられないという現状の中で、PTは何ができるのか。また小児へのサービスについても、私たちは考える必要があるのではないかと思います。



堀尾 先生

高齢者の問題はいちばん大きく、介護保険の問題はもちろん大きな関心があります。南砺市では高齢化率30パーセントを超えています。そのなかで、今一番問題なのが、療養病床が減る中で医療需要度が高いケースをショートステイなどで受け入れられるのか？ということです。また認知症について、今まで一歩ひいてきたが、今後PTはどうみていくのか。また終末期を安心して迎えられる地域をどうやってつくっていくのか。直接PTでは

ないかもしれないが、関わっていかなければならない課題だと思います。広域支援センターとして、大きなテーマは「医療必要度の高いケースをどうするか、認知症をどうするか、終末期をどうするか」の3点です。PTとして自分が関わっている中で考えていかなければならないと思っています。

飯野：自分が関わっている職域ということで考えると、今訪問で関わる方には難病の方が多いです。吸引が解禁になったこともあり、吸引などの様々な知識や技術を身につけて、地域に還元したいと思っ



飯野 先生

ています。水橋も高齢化が大変進んでおり、一人暮らしが多いです。住み慣れた地域で最後まで生きていけるような関わり的一端を自分たちも担いたいと考えています。色々な施設、その特性を生かして地域に根差せればと思っています。

福江：自分自身のライフステージをというのがひとつの課題ですが、自分の専門性の中で役立っていたと感じるのは、いわゆる「説明」だと思います。一般の方は私たちが思っている以上に、医療的な知識がわからないことが多いです。わかりやすく説明したり、色々なお話をしたりする中で、専門的なことをいかにわかりやすく周りに伝えるかということは、とても大切だと思います。



平田 先生

また介護の世界には若い介護スタッフが多いです。リスク管理や体の使い方など、不安に思っていることが多いと思います。若い職員たちが今後の介護の形を担えるようにお手伝いをしていければと思っています。

これからは特養にも関わって、終末期にも目を

向けていけたらと考えています。

平田：訪問看護ステーションで関わっている立場から感じることは、ドクターやケアマネと情報をやりとりするなかで、みんなとアセスメントや検討をしながら、少しずつ利用者と進んできました。これからも、お互いに相談しあえる体制を取っていきたいと思います。先程も言われましたが、難病、障がい者にも十分なサービスが提供できていない現状もあります。その面では、私たちが関わる大切さを痛感しました。

西川：私も数年すれば、後期高齢者・・・また介護を受ける立場にもなります。今後良い地域サービスをつくるためにも、特養、デイサービス、ショートステイなどにリハ職種を配置するなど、リハ関係者が、施設の中でもっと活躍できる場ができるよう、施設に対して提言していきたいです。



西川 先生

森山：長時間、本当にありがとうございました。今回のお話は、私にとっても大変勉強になりました。今後、行政で地域、介護に関する計画を話すときにも、理学療法士は？作業療法士は？という話がよく出ます。また住み慣れた地域で、という計画はどこの市町村にもあります。今の話をうまく整理して、行政に還元していきたいと思います。みなさんお疲れさまでした。

(終)





リレーエッセイ

もうすぐ2年目で思うこと

中川整形外科クリニック 畔 川 慎 一

昨年の3月30日に国家試験の合格発表を受けてから、はや1年が過ぎました。長いようで短いこの1年間、数えきれない程の失敗と反省を繰り返してきたと思います。今でも仕事で悩む度に「ちゃんと勉強しておけば良かった」と学生時代のチャラチャラした自分に後悔しながら毎日を過ごしています。

昨年の4月から今まで、大きく成長したかと聞かれればあまり実感はありません。それでも患者様から感謝の言葉をいただき満足するような結果を出せたときは、喜びと共に医療人としての自信を少しずつ持てるようになってきたと思っています。

働き始めた頃は、右も左もわからず早く一人前になろうと焦っていました。研修会にも何度か参加させていただきましたが、自分自身、はっきりとした目標がなかったため、せっかくの研修会もただなんとなく参加するだけとなっていたと思います。しかしながら、日々患者様と接することでたくさんの事を学び様々な経験をさせて頂いたことによって、積極的に物事に取り組むようになり、少しずつ自分の目指すものが見えてきたと感じています。

先日、昨年度の国家試験の合格発表がありましたが、その合格率の変化に正直驚きました。理学療法士法が施行されてから45年が経ち、理学療法士は社会に必要とされて浸透してきました。しかし、現在では近年の若年PTの急速な増加に伴ってその"質"が求められる時代へと変化してきていると思います。そのため、私たち新人PTが一人ひとり探求心を持って、「自分に何ができるのか、自分の目指すものは何か」を考えて追求していくことがこれからの"大理学療法士時代"に必要なではないかと思っています。

私自身もまだまだ若輩者で学ぶべきことがたくさんありますが、医療人として常にアグレッシブなPTを目指して向上心と探求心、そして誰にも負けないチャラさを持って日々過ごしていきたいと思っています。

次回は「きたがわ整形外科医院 里崎 賢人 先生」です。



SCOOP!!

第1弾

創立40周年記念事業

来年度、富山県士会は創立40周年を迎えます。
記念式典・記念講演・祝賀会の開催日及び場所が決定いたしましたので、
お知らせします。

【開催日】

平成24年9月29日(土)

【場 所】

名鉄トヤマホテル

※詳細は、今後随時お知らせいたします。

たくさんの皆様のご参加をお待ちしています。



社団法人 日本理学療法士協会 富山県士会
創立40周年記念事業準備委員会より

事務局 インフォメーション

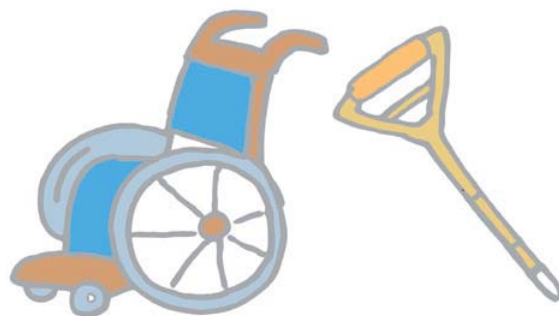
- 職場の異動や自宅住所の変更等がある場合はお早めに異動届を事務局に提出願います。その際は出来るだけ書類を郵送でお願いします。
- 職場で会員のご結婚の予定がおわかりでしたら、事務局へご一報願います。事務局より祝電にて祝福させていただきます。

職能局の相談窓口

職能に対して、職能局では電話による相談を受け付けています。お気軽に何でもお尋ねください。また今年度より相談窓口が変更になりましたのでよろしくお願いいたします。

西能病院 リハビリテーション科 森田まで

TEL (076) 441-3157 FAX (076) 441-6369 E-mail:tmorita@sainouhp.or.jp



- 東日本大震災救援活動に参加された先生方 お疲れさまでした。士会の研修会では、募金活動を行う予定ですので皆様のご協力をお願いします。(滝田)
- 「会報とやま」ってこんなに大変だったんですねえ。(大野)
- 東日本大震災以来、どうも頭がスッキリせずなんとなく重い空気が漂っています。やはり原発事故のせいです。一日も早く復旧復興することを祈っています。(田村)
- 私たちにできること…？職場でささやかなカンパ活動を続け被災地へ届けています。小さなことでも続けていきたいです。
- 九州地方が梅雨に入りました。この号が出るころには、富山も梅雨真っ盛りでしょうか?!(中谷)
- 暖かくなって頭の中に花が咲いてきました…八尾Hpの後輩君、結婚おめでとう☆!!今年度もよろしく願います。(高野)
- 今年の夏は暑いのかな？ 今から節電対策を考えましょう(荒木)
- 去年、腰痛で入院しましたが、最近、また腰痛がひどくなり、朝、起き上がる時、痛みがあります。皆さんも季節の変わり目なので、身体に気をつけて下さい。(牧野)
- 施設の利用者とリハビリを兼ねて畑をしています。今年こそ豊作になるよう日焼け覚悟で頑張ります。(福島)
- 最近サックスが徐々になくなっています。閉店間際は商品が半額なので狙い目ですよ!!(南)
- 数年ぶりにカゼをひきました。そうしたら2ヶ月くらいずっとひいていました。カゼのツラさを思い出しました。(新森)
- 急性期からの患者さまより廃用で戻ってこられる方を担当することが多くなった今日この頃。「次につなげる」をしっかりと出来るようにしていきたいと思います。(団)
- 今年度の情報管理部のお仕事はじまりました。会計精一杯がんばります。(島崎)
- 富山県士会は、40周年を迎えようとしています。今回の会報のボリュームにも見える様に確実に厚さを増しているものと思います。(匿名)
- 今年度「会報とやま」を担当させていただきます。不手際等ありますが、どうか温かい目で見守ってください。さて「東日本大震災」の支援活動は多くの先生方が参加しておられます。そのため第2号以降も「活動報告」を掲載していく予定にしています。誰か「支援活動に参加された方」ございましたら、自薦他薦問いませんので是非「長谷」の方にご紹介をお願いいたします。忘れてはならない「災害」だと思います。「喉元過ぎれば…」にしたくないものです。これからもよろしくお願いいたします。(長谷)
- 今年度より、情報管理部部長となりました黒部市民病院「笹川」です。県内外の士会のホットな情報を皆様に届けていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。(笹川)





2011. 6. 30

社団法人 日本理学療法士協会
富山県士会

〒936-0023 富山県滑川市柳原149-9
富山医療福祉専門学校
理学療法学科内

☎ (076) 476-1716

発行人：島 倉 聡
編集：笹 川 尚
印刷：志 貴 野 苑

士会URL:<http://toyamapt.umin.ne.jp/>
事務局アドレス:toyamapt-office@umin.ac.jp